

風戸賞と研究奨励賞

電顕関連研究の若手4氏に

風戸研究奨励会(田中通義理事長)は2月22日、東京・大手町の経団連会館で今年度(第7回)の「風戸賞」と「風戸研究奨励賞」の授賞式を行った。受賞したのは各賞2人の計4人。

風戸賞は満45歳以下を対象とし、電子顕微鏡並びに関連装置の研究、開発および電子顕微鏡並びに関連装置を用いた研究(医学、生

物学、物理学、化学、材料学、ナノテク、その他)で優れた業績を挙げた研究者に褒賞として副賞50万円とともに贈呈するもの。また風戸研究奨励賞は満35歳以下を対象に、同分野で実績があり、かつ将来性のある優秀な研究者に助成金300万円を贈呈するものである。今回の受賞課題、受賞者、業績は次の通り。

【風戸賞】

◆有機単分子励起運動の高分解能電子顕微鏡観察法の開発(越野雅至・産業技術総合研究所ナノチューブ応用研究センター研究チーム長) || カーボンナノチューブに閉じ込めた有機単分子を高分解能電子顕微鏡法で観察し、電子線照射下での分子の様々な励起運動(立体配座)変化を原子レ



ベルで明らかにすることに世界で初めて成功し、長らく期待されていた電子顕微鏡法で分子の動きや反応を原子レベルで観る手法を切り開いた。

◆極低温電子顕微鏡による膜タンパク質の二次元結晶構造解析(谷一寿・名古屋大学細胞生理学研究センター特任准教授) || 極低温電子顕微鏡法を用いて、哺乳類の細胞膜チャネルやホップ・タンパク質についての二次元結晶を解析し、立体構造を解明することで、タンパク質機能と構造の関係を明らかにした。

【風戸研究奨励賞】

◆透過電子顕微鏡によるダーク・フラスモン・モードの観察(三宮工・東京工業大学大学院理工学研究科助教) || ナノ構造に特有なダーク・フラスモン・モードによる光放射を電子顕微鏡観察し、ダーク・モードを介した光変換の基盤技術の確立に発展させようとする意欲的な提案である。

◆クライオ電子顕微鏡による纖毛内メカノシグナリクスの解析(小田賢幸・東京大学大学院医学系研究科助教) || クライオ電子顕微鏡トモグラフィに遺伝子操作技術を組み合わせる新手法を用い、纖毛運動の統御機構を軸系タンパク質間の相互作用に着目して、真核生物の細胞運動の基軸となる纖毛の微細構造と機能を解明する計画である。

■風戸研究奨励会 日本電子の創設者である故風戸健二氏が昭和43年同社の創立20周年を記念して、私財から同社の株式等の寄付を行い、翌44年に設立した公益財団法人である。